

あ い さ つ

会長挨拶

高知女子大学看護学会会長

山 崎 智 子

皆様、こんにちは。暫くでございました。ようこそ、本学会へご参集下さいました。本当に珍しいお顔も何人か目に入ります。回を重ね、18回になりました。今年は皆様方の強い御希望もあり、こうしたゆったりした会場を準備させていただきました。第1回の女子大203番教室での情景を思いますと、本当に隔世の感が致します。今、この18回高知女子大学看護学会のハンガーを下から眺めながら、2年後の20回目ともなると、何か節目の催しをすることになるのかと色々の思いが横切り、大きく深呼吸をしたところでございます。

日頃は、運営委員の皆様方には、お忙しい仕事の合間をぬって、この学会の企画・運営に参加していただいておりますが、昨年からは専門職を対象とした公開講座の企画・運営、そして講師としてもご活躍いただくなど、随分とご苦勞をおかけ致しておりますこと感謝致しております。お陰様で、こうした立派な学会を開くことができました。今年は強の年に当たっておりますので、今日と明日の2日間の予定を組んでおります。暑さの中ではございますが、どうぞ活発な意見交換、御討議、そして親睦の輪をも広げていただきたいと思います。

ところで、この2月には卒業生を対象としましたアンケート調査をさせていただきました。その節は御協力いただき、ありがとうございました。今回、その一部を報告させていただくことになっております。その回答を読ませていただきながら、一人芝居ならぬ一人会話を暫し楽しませていただきました。総じて好意に満ちた提案、御意見が多く、古い卒業生の御意見にはそれなりの重みを感じられました。女子大看護学科の教育は知る人ぞ知ることではなく、積極的にアピールせよ、また政治力・経済力のある人材の育成を、という御意見などいただきました。今後活かしていきたいと思っております。

皆様方すでに御承知の通り、全国的に看護教育の大学化が急激に進んでおります。高知女子大学も遅ればせながら、ようやく動き始めました。看護学科は学部独立、修士課程、付属施設の設置を随分昔から要望して参りました。今の時期、全国的な流れの中では、本当に遅ればせという感はありませんが、卒業生の皆様の一一致した願いでもございますので、是非実現させたいと頑張っております。

それにつけましても、卒業生の皆様方が、社会的に活発な活動をして下さっているということが、大きな支え、力になっております。今後とも益々のお力、御協力をお願い致します。

学科発足から40年ともなりますと、皆様方の活動が社会的にも評価され、文部大臣・厚生大臣からの表彰を受けられる方々が出ております。文部大臣表彰は、昨年は養護の分野で、2期生の野島さん、藤井さん、そして4期生の西岡さんが受賞なさっております。厚生大臣表彰は、2期生の野崎さんと4期生の松田さんが受賞されました。このことを御披露申し上げ、喜びを共にいたしたいと思います。

卒業生の皆様方のお力をいただきながら、歴史と伝統を誇る高知女子大学、そして本学会も益々発展致しますよう御支援いただきたくお願い申し上げます、挨拶といたします。